

写真等のデータを共有し、成果物を作成する力の育成

HYOGO スクールエバンジェリスト 丹波市立南小学校 池田 悟

本時の目標 ・地域の危険個所を調べ、その写真データを共有することで校区に特化したデジタル防災マップを作成することができる。 ・分かりやすい防災マップを作るために、友達と協力し、試行錯誤をすることができる。	校種・学年	小学校・4年
	教科・領域	社会科(総合的な学習の時間)
	アプリ・ソフト	Scratch
	備考	

○本時の展開

	○学習活動(◆指導上の留意点)
導入	○本時のめあてを確認する。 撮影した写真データを共有し、Scratchでデジタル防災マップを作ろう。 ◆Scratchの操作技能は、モジュール等の時間を活用するなど事前に指導をしておく。 ◆地域の危険個所等を撮影したデータは、共有の領域(クラウドや校内共有サーバー)に保存させておく。
	○ペア・グループで端末を操作し、デジタル防災マップを作る。 ◆校区の地図を背景にし、アイコン(スプライト)をクリックすると写真が表示されるしくみを基本として作成させる。
展開	
まとめ	○お互いの成果物を確認し、次回の作業を計画する。 ◆できるようになったことや、友達の工夫などの視点で交流する。

育成できる情報活用能力

◎大勢で情報を集めることで効率よく成果物を作れることを体験できる。また、情報を特定の場所に保存することで、電子ファイルの保存や呼び出し、クラウドを用いた作業の理解が深まる。

育成できる情報活用能力

◎友達との対話を通して受け手の立場を考えることで、写真提示だけではなく、音声を利用するなどのアイデアも活かすことができる。



<p>児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区内でも自分の知らないところがたくさんあったが、友達が写真を撮ってきてくれて、たくさん情報を集めることができました。 ・ハザードマップに載っていない情報をつけ加えて、実際に役に立ちそうな防災マップを作ることができて良かったです。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・写真撮影という簡単な操作技能も、データをクラウドに保存することで、応用的な情報活用能力を育成することができる。
- ・プログラミング体験を取り入れることで、話し合いが活性化し、試行錯誤を経て、アイデアを具体的な形にすることができる。

効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「シンキングツール」等を組み合わせて活用したりして整理する

HYOGO スクールエバンジェリスト 三木市立吉川小学校 宮脇 久典

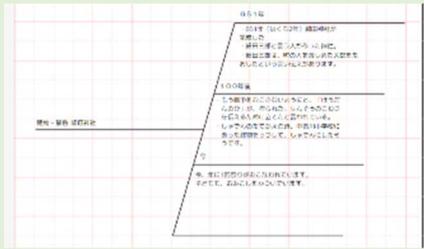
本時の目標	校種・学年	小学校・4年
・友だちの発表を通して、ふるさとに古くから残る建物について知ることができる。 ・ふるさとに古くからある建物が、先人たちの残したい、伝えたいという強い願いや行動があって残っていることを理解することができる。	教科・領域	社会科
	アプリ・ソフト	・コラボノート
	備考	

○本時の展開

○学習活動（◆指導上の留意点）	
導入	友だちの発表を聞いて、ふるさとに古くから伝わるものについて知ろう。 ○本時のめあてをふまえ、子ども達一人ひとりに本時で目指すめあてを設定させる。 ◆設定しにくい児童は、友だちの内容を参考にしてよいことを伝える
展開	○発表者は、自分の調べたことを、コラボノートを使ってプレゼンする。聞いた児童は、友だちの発表から質問したり、コラボノート上で感想を入力したりする。 ◆発表者には、発表時に名称、場所、説明する内容など説明するポイントを事前に確認させる。 ◆感想を書く時には、どの点についてどのように思ったかなどまとめるポイントを事前に確認させる。
まとめ	○児童一人ひとりに、本時のふりかえりをさせる。 ◆単なる感想とならないよう、教師や友だちからの気づきなど書くポイントを事前に押さえる。

育成できる情報活用能力

◎思考ツールを活用することにより、インターネットやインタビューで調べてわかったことを協働（個人）作業で年代別に整理・可視化することができる。



育成できる情報活用能力

◎めあての記入から授業を計画しようとする態度、ふりかえりの記入から授業を改善しようとする態度を子ども達一人ひとりが主体的に養うことができる。

児童の感想

- ・タブレットを使って勉強するのは、とても楽しかったです。思考ツールを使うととても書きやすく、友だちの発表もわかりやすく聞くことができました。
- ・めあてとふりかえりを書くことで、いつも何をがんばろうかと考えるきっかけになったり、授業中もこれをふりかえりに書こうと考えたりするようになりました。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・児童が手に入れた情報を、整理するだけでなく、他の児童への発表用資料としても十分機能しており、全体で情報共有することができた。
- ・本時のめあてやふりかえり、感想など継続的に取り組ませることにより、児童一人ひとりが授業全般を通して主体的に取り組むことができた。

必要な情報を収集、整理、分析、表現する力の育成

HYOGO スクールエバンジェリスト 芦屋市立山手小学校 光岡 智史

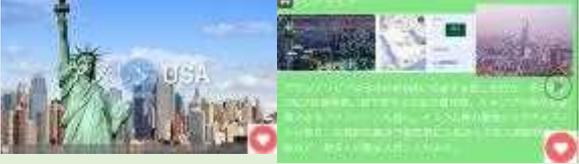
本時の目標	校種・学年	小学校・6 年
・日本はさまざまな国とつながりを持っていることや、世界の国の人々の生活や文化は多様であることを捉える。 ・互いの文化や生活習慣を尊重することの大切さを考え、表現する。	教科・領域	社会・日本とつながりの深い国々
	アプリ・ソフト	・ミライシード(オクリンク) ・keynote・iMovie 他
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○本時の目当てを設定する。 ◆前時の問題の答え合わせをし、本時の教科書の問題に取り組む。 ◆オクリンク上で問題や解答を配布する。
展開	日本とつながりの深い国の人々は、どのような暮らしをしているのだろう。 ○調べ学習・まとめ作成に取り組む。 ◆まとめの作成方法(①オクリンクカードによるまとめ②keynote によるまとめ③ノートや紙によるまとめ④動画作成によるまとめ)を、児童が選択できるように課題設定する。
	○まとめ作成の進捗状況を提出する。 ○授業ふり返りを提出する。 ◆まとめの進捗状況は、オクリンク上でお互いの成果物を見合えるようにする。 ◆視点が広がっている様子が見られるふり返りは、全体に紹介する。

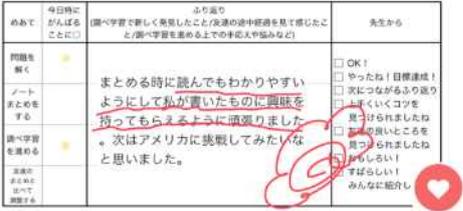
育成できる情報活用能力

◎「目的に応じたアプリケーションの選択と操作」や、「相手や目的を意識したプレゼンテーションの方法」を育成することができる。



育成できる情報活用能力

◎「試行錯誤し、計画や改善しようとする態度」を育成することができる。



児童の感想
・自分に合った活用法を選ぶことができるので、勉強に対して楽しいと思えるところがいいと思います。 ・ただ黒板に書かれていることを写すのではなく、自分で考えてまとめる力がつくと思います。 ・迷っている時に、友達の考えを参考にできるのでいいと思います。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・成果物のまとめ方を児童自身に選択させることで、児童が適切なアプリケーションを選択し、工夫を凝らす姿が見られた。
- ・お互いの成果物を途中段階で確認し合って進めることで、それぞれが自分の取り組みに生かす姿が見られた。